みんなで防ごう土砂災害

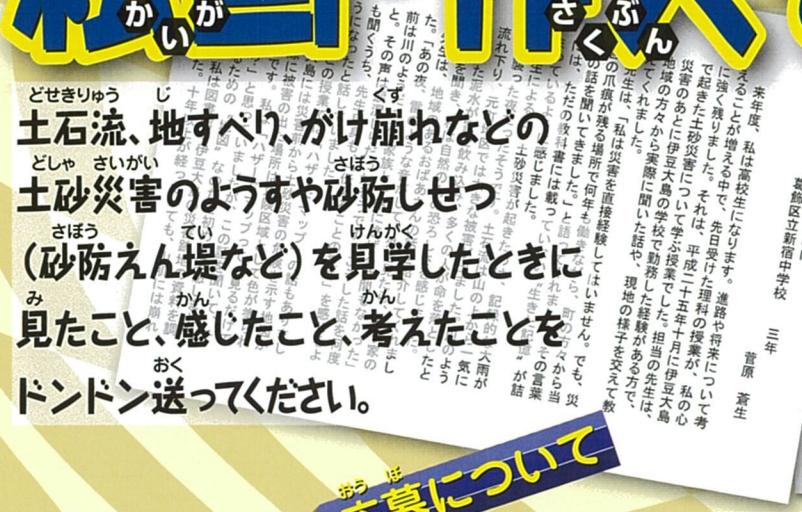
土砂災害防止月間 6/1→30

がけ崩れ防災週間 6/1▶7

土砂災害防止についての

絵画・作文を募集します

土石流、地すべり、がけ崩れなどの土砂災害のようすや砂防しせつ（砂防えん堤など）を見学したときに見たこと、感じたこと、考えたことをドンドン送ってください。



「未来につなげる」ために
葛飾区立新宿中学校　三年　菅原　蒼生

来年度、私は高校生になります。進路や将来について考えることが増える中で、先日受けた理科の授業が、私の心に強く残りました。それは、平成二十五年十月に伊豆大島で起きた土砂災害について学ぶ授業でした。担当の先生は、災害のあとに伊豆大島の学校で勤務した経験がある方で、地域の方々から実際に聞いた話や、現地の様子を交えて教えてくれました。

先生は、「私は災害を直接経験してはいません。でも、災害の爪痕が残る場所で何年も働いていると、町の人から当時の話を聞いてきました」と話しました。

ただの教科書には載っていない、その言葉に感じました。

流れ下り、元町の人家を襲った土砂災害が起きました。記録的な大雨が山の斜面を崩し、土石流となって、多くの命を奪ったのです。

私は、地域の人たちが経験した話を聞いてみようと思いました。

前は川のようだった、「あの夜、大雨が降り、気に入っていた家が流されてしまった」と話す人もいました。

と。その声は、くぐもり、先生は、「自然の力は、とても恐ろしい」と話しました。

も聞くうち、先生の授業を聞き、多くの命を奪ったこと、感じたことを、

うになったと話しました。

島には災害の爪痕もあります。

ハザードマップ

に被害の爪痕もあります。

ごと崩れ、家が流されています。

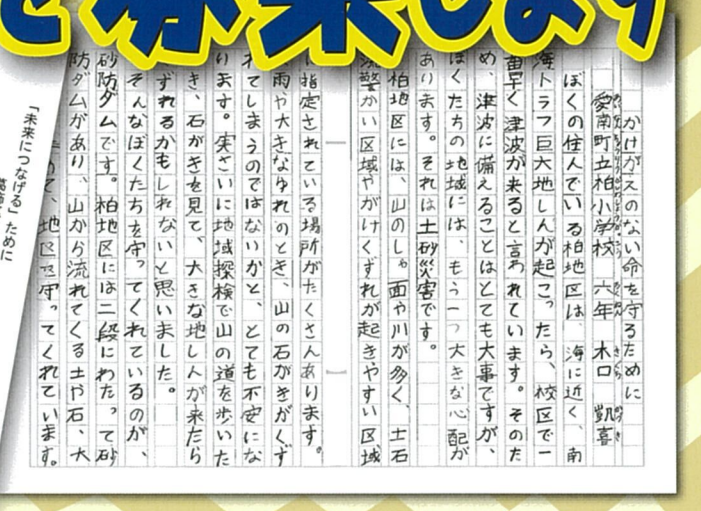
私は図書館で、地域の人たちが経験した話を見ました。

十年経ったいまでも、災害の爪痕は残っています。

なぜ、人は、災害が起きたあとも、その場所に住み続けるのでしょうか。

私は図書館で、地域の人たちが経験した話を見ました。

十年経ったいまでも、災害の爪痕は残っています。



かけがえのない命を守るために
愛南町立柏小学校　六年　木口　凱喜

ぼくの住んでいる柏地区は、海に近く、南海トラフ巨大地しんが起こったら、校区で一番早く津波が来ると言われています。そのため、津波に備えることはとても大事ですが、ぼくたちの地域には、もう一つ大きな心配があります。それは土砂災害です。

柏地区には、山のしゃ面や川が多く、土石流がおこりやすい区域やがけくずれが起きやすい区域

指定されている場所がたくさんあります。

雨や大きなゆれのとき、山の石がきがくずれてしまうのではないかと、とても不安になります。実ざいに地域探検で山の道を歩いたとき、石がきを見て、大きな地しんが来たらくずれるかもしれないと思いました。

そんなぼくたちを守ってくれているのが、砂防ダムです。柏地区には二段にわたって砂防ダムがあり、山から流れてくる土や石、大きな石から、地区を守ってくれています。

応募について

内容・大きさ
絵画のかき方、大きさは自由。作文は400字詰めの原稿用紙で小学生低学年は2～3枚（800～1,200字）、高学年は3～4枚（1,200～1,600字）、中学生は4～5枚（1,600～2,000字）。
どちらも未発表のものに限ります。

応募期間
令和8年6月1日～9月15日まで

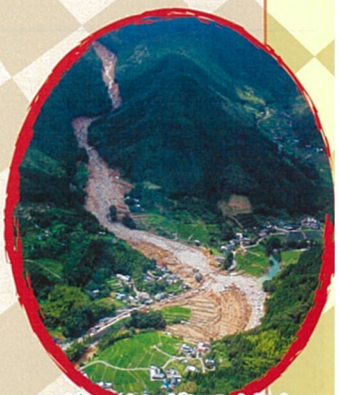
応募資格
小学生・中学生

送り先
あなたの住所、氏名、年齢、電話番号、学校名、学年を記入し、
都道府県庁砂防主管課
「土砂災害防止に関する絵画・作文募集」担当あて

賞
最優秀賞／優秀賞

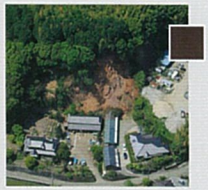
発表
令和9年2月中

表彰
令和9年3月中に国土交通省又は各都道府県において行います。
これまでの入賞作品は国土交通省砂防部Webサイトで見ることができます。
https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/sabo/kaiga_sakubun.html


どしゃさいがいのようす

土砂災害ってなに？

大雨などが引き金となって、大量の土砂が崩れたり動いたり、水と一緒に流れたりすることで起こる災害のことです。地震の揺れが直接の原因となって起こる土砂災害もあります。また、大きな地震のあとは、地盤が崩れやすくなっているため、少しの雨や余震でも土砂災害が起きやすくなります。



■ がけ崩れ（斜面崩壊）

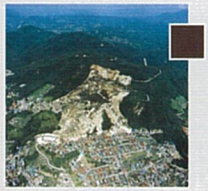
急な斜面が崩れる

- 傾斜が30度以上ある斜面が危ない。
- 大量の雨が地中にしみ込むと起きやすい。
- 大雨の時に一瞬のうちに起こることが多いため、逃げ遅れて助からないおそれもある。
- 雨が止んだ後に起こることもある。雨が止んでも数時間は注意。
- くずれた高さの２倍くらいのところまで土砂がおそってくることもある。

■ 土石流

山から崩れた土や石が、
水といっしょになって、
ものすごい勢いで流れ下ってくる

- 大雨が発生の引き金になる。梅雨や台風の時期は特に注意。
- 速いときは時速40キロ以上。大きな岩も流してしまう。
- 雪どけ水で発生することもある。



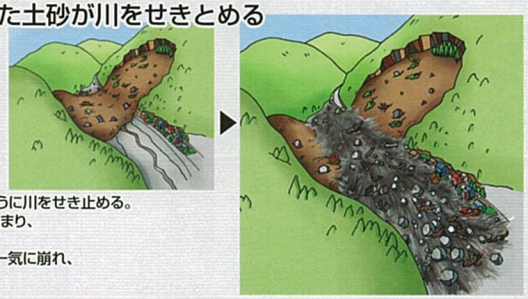
■ 地すべり

やや傾斜のゆるい斜面が、
広い範囲にわたって
かたまりのまま動く

- 雨水や雪どけ水が地中にしみ込んで起こる。
- 家や田畑といっしょに大地がゆっくり動くこともあり、突然一気に何十メートルも動くこともある。
- 地震が原因で起こる地すべりもある。

■ 河道閉塞（天然ダム）

崩れた土砂が川をせきとめる



- 地すべりやがけ崩れの土砂、土石流で流れてきた土砂が、ダムのように川をせき止める。
- 天然ダムの上流側は湖のように水がたまり、家や田畑が水につかる。
- 天然ダムはやがて、たまった水の力で一気に崩れ、下流に土石流が押し寄せる。

がけ崩れの前ぶれ

① がけから小石がパラパラ落ちてくる。
② 樹木がゆれたり、かたむいたりする。
③ 斜面から水がわき出る。
④ 斜面にひび割れができる。

立退き避難が困難な時は、がけから離れた部屋や2階などに避難しよう。

こんな変化に注意

土砂災害の前ぶれ（前兆現象）

身のまわりでこんな現象が起こったら、すぐに近所の人や役場に知らせ、安全な場所に避難しましょう。特に大雨が降っているとき、降ったあとは要注意です。

土石流の前ぶれ

① 川や沢の中でゴロゴロという音がしたり、火花が見えたりする。
→上流の山が崩れ、大きな石がぶつかり合いながら流れてくるため。
② 川や沢の流れがにごり、生の木が流れてくる。
→上流の山が崩れて、土砂や木が川や沢を流れているため。
③ 山鳴りがする、異常なにおいがする、地鳴りがする。
→上流で山が崩れているため。
④ 雨がふり続いているのに川や沢の水が減る。
→上流の川や沢が崩れた土砂でせき止められているため。土石流の危険がせまっている。

土石流から逃げる時は、川から離れてなるべく高い所にあがろう。

地すべりの前ぶれ

① 池の水がにごったり、減ったりする。
② 山の樹木がザワザワとさわぐ。木の裂ける音や木の根が切れる音がする。
③ 地鳴りや山鳴りがする。
④ わき水がふえる。
⑤ 地面にひび割れや段差ができる

⚠ ここにあげたのは前兆現象の一例です。このほかにも「いつもと何か違う、変だ」と感じたら、役場や近所の人に知らせて安全な場所に避難してください。

土砂災害警戒区域の看板

近所にこういう看板はないですか？

がけ崩れ、土石流、地すべりの
危険が大きい場所を示しています。
これらの場所は特に注意しましょう。